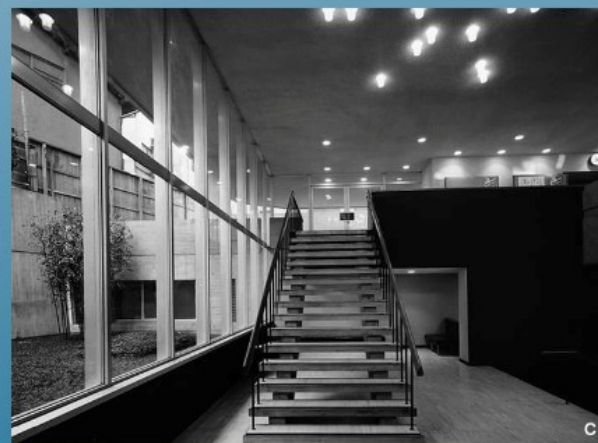
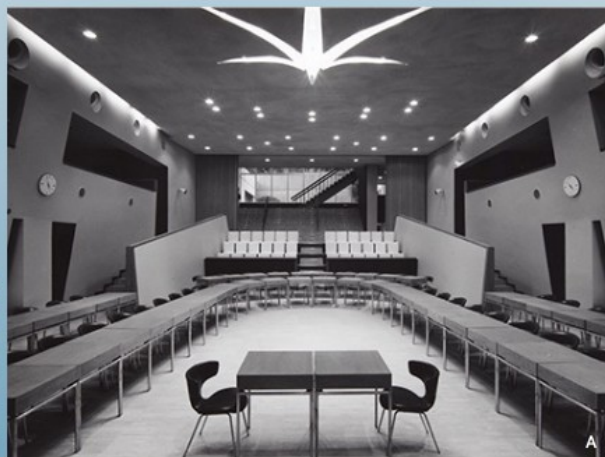
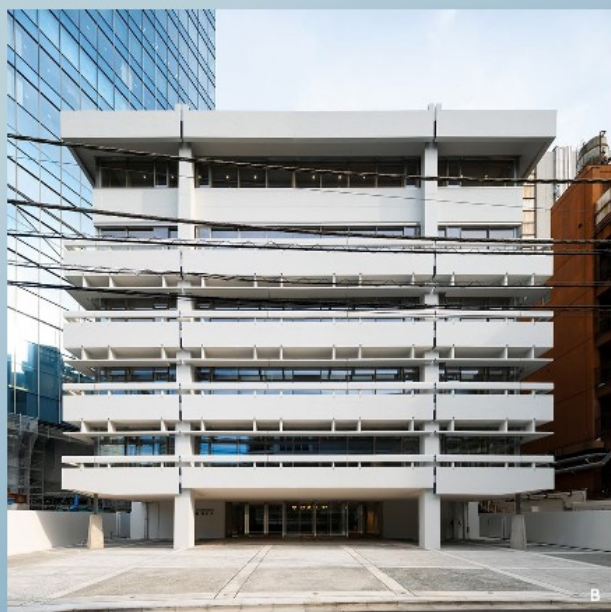


シンポジウム

人が集まることと「会館・施設」の社会学① 隣保館・宗教施設・労働組合会館から公共建築を考える



写真A・C／雑誌「建築」1964年5月号から転載、写真B／傍島利浩 出典：全日本海員組合図書資料室HP

「会館」という場に、あなたはどのようなイメージを抱くでしょうか。町内会館や労働組合会館、婦人会館は、戦後日本において、地域住民や労働者の助け合いの拠点となり、また、市民の要求を公助へと押し上げる役割を担ってきました。しかし現代において、こうした施設が果たしてきた社会的・公共的機能が広く知られているとは言えません。

本シンポジウムでは、現代の公共建築と市民参加の関係を論じてきた松村淳氏、宗教の社会貢献を研究する白波瀬達也氏、そして日本を代表する労働組合会館「海員ビル」の改修に携わった藤本貴子氏・木原進氏にご登壇いただきます。隣保館、宗教施設、労働組合会館という、一見すると異なる成り立ちをもつ施設を横断的に捉え、「会館」をめぐる歴史的・社会的知見と、建築の改修・運営をめぐる実践的知見を交差させます。それにより、現代社会における「公共建築」とは何かを問い直し、人が集まり、支え合い、社会につながる場の可能性を考えます。

また、当日は暮らしづくりネットワーク北芝より「まちづくりの中心を担う隣保館について」と題して、隣保館に関する講座と館内・館外のご案内もいただきます。

登壇者

松村 淳（神戸学院大学）／白波瀬 達也（関西学院大学）
藤本 貴子（法政大学）・木原 進（梅ノ木文化計画）

司会：富永京子（ウィーン大学／立命館大学）

2026/10/25（日）

シンポジウム：15:00-17:00

講座＆見学：13:30-14:40

「まちづくりの中心を担う隣保館について」

※シンポジウムのみのご参加も可能です

会場：箕面市立萱野中央人権文化センター らいとぴあ21

〒562-0014 大阪府箕面市萱野1丁目19-4

（駐車場に限りがあるため、可能な限り公共交通機関でお越しください）

連絡先：立命館大学 富永研究室（ritstominagalab@gmail.com）

参加希望の方は
QRコードからご登録ください

